

平成 28 年度第 2 回研修会報告

千葉市生涯学習センターにおいて、平成 28 年度第 2 回研修会を開催しました。

今回は、耳塚良史氏(量子科学技術研究開発機構本部図書館)による事例報告①「組織改編に伴う図書館の対応」、太田康幸氏(千葉市中央図書館管理課読書環境整備担当課長)による事例報告②「ナイトライブラリー&トークセッション 3 年目を迎えて」、そして平成 28 年にリニューアルした千葉市生涯学習センター地下 1 階の見学を行いました。事例報告①では統合に向けた図書館の対応、事例報告②では図書館の非日常を体験できるイベント開催の経緯などについて発表いただき、非常に有意義な研修会となりました。



千葉市生涯学習センター

日時 平成 28 年 12 月 22 日(木) 15 時 00 分～17 時 00 分

会場 千葉市生涯学習センター3 階 研修室 2

① テーマ 「組織改編に伴う図書館の対応」

発表者 耳塚良史氏(量子科学技術研究開発機構本部図書館)

② テーマ 「ナイトライブラリー&トークセッション 3 年目を迎えて」

発表者 太田康幸氏(千葉市中央図書館管理課読書環境整備担当課長)

事例報告①

「組織改編に伴う図書館の対応」

量子科学技術研究開発機構本部図書館

耳塚 良史

組織改編はどのような組織・会社・団体にも起こりうる変化であり、場合によってはそこに所属する図書館も大きな影響を受ける。著者の所属していた国立研究開発法人放射線医学総合研究所(以下、放医研)は、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構(以下、原子力機構)の事業の一部を移管統合し、2016 年 4 月 1 日より『国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構』(以下、量研機構)として発足した。従来単独館であった放医研図書館は、六ヶ所核融合研究所、那珂核融合研究所、高崎量子応用研究所および関西光科学研究所の 4 拠点の

図書館が原子力機構より移管され、千葉(旧放医研)を中央館とした 5 館が連携して運営される事となった。新機構の発足に際し放医研図書館担当者らにとって大きな労力を要したのは、「学術系外国雑誌の契約変更」、「図書資料データの移行」および「図書館共通ルールの整備」であった。これら 3 項目について、組織改編対応事例として以下に詳述する。

学術系外国雑誌の契約変更

学術系外国雑誌の年間購読額は、購読機関の規模(拠点数と利用者数)に基づき算出され、また契約期間は

多くの出版社で 1-12 月に設定されている。4 月 1 日の量研機構発足により拠点数は 5 倍、利用者数は 2 倍に膨らむことから、2016 年の契約変更が必要となった。一般に出版社は契約期間中の条件変更を好まない上に、1-3



耳塚良史氏
量子科学技術研究開発機構本部図書館

月分は量研機構発足前であるため、量研機構として契約する事は会計法上不可能であった。「研究機関の部分的な分離と統合」という図書館業界全体を見渡しても前例の少ない状況の中、30社超の出版社、代理店および原子力機構の図書館担当者と密に連絡を取り合い、時には直接交渉にて手段を模索しながら粘り強く交渉を重ねた。その結果、代理店を変更しない等幾つかの条件があったものの、4月1日の契約変更による機関規模増加分の支払いで合意でき、概ね希望通りの契約に至ることができた。



図書資料データの移行

データ移行に当り懸念されたのは、両機関が使用している図書館システムの違いであった。放医研は市販パッケージ製品を、原子力機構では独自開発システムを使用していた為、データ保存形式が異なっていた。システムへのデータ移管作業は業者が担当することになっていたが、移管予定のデータを放医研のシステム形式に整形する作業は、データのチェックも必要であることから放医研図書担当職員が担当することとした。4月1日の全拠点図書

館利用開始という前提の中、原子力機構の図書データ入手時期および図書システム維持管理業者との契約期間制限のため、データの整形作業期間は僅か9日間であった。タブ区切りのテキスト形式で原子力機構より入手した約13万件に上る移管データに対してパターン解析を行い、エクセル関数を駆使し、放医研図書館システムのパターンから逸脱したデータについては、手作業で対応した。本作業では、関数により効率的に自動化出来た一方で、ある程度の手作業も想定して対応したことで、エラー処理の組込み・デバッグにかかる時間の大幅な節約に繋がった。事前にシステム化する範囲と手動の作業量を想定し対応したことにより、大きな支障もなくシステムの移行が出来たと思われる。

図書館共通ルールの整備

当然ながら量研機構発足後は、(従来はほとんど経験の無い)地理的に離れている図書館間で、複写依頼や図書資料の予約・取寄せ依頼などの調整が頻繁に発生する。そのため、図書館システムのみでは対応できない事例について可能な限り想定し、それらの対応方法について業務フローを含む詳細な運用ルールを整備し、量研機構発足直前ではあったが、暫定版として全拠点図書担当者と情報共有した。運用ルールの事前策定は、発足後の図書館運営に不安を感じていた拠点担当者にとって少なからず役立つものと自負している。

これらの諸問題を適切に対処して4月1日の量研機構図書館発足を順調に向かえることが出来た主要因としては、①タスクリストによる作業の進捗管理、および②徹底した対話が挙げられる。膨大な準備作業をチームとして進める中で、「やるべき作業」が「現時点で何%完了しているか」を「誰が見ても一目瞭然」となる項目をリストとして共有することで、担当者間で課題の把握や注力すべき作業の理解が進み、計画通りに作業を進める事ができた。また、将来の予測が不可能な中で準備を進めざるを得ない場面も多々あったが、関係者との対話と密な連携を通して真摯な姿勢で周囲を巻き込み、粘り強く取組む事が、実現不可能と思われる困難を打破して、事態を好転させる有効な手段であった。



以上のノウハウは、自身にとって今後大いに役立つものであり、大変貴重な経験ができたと考えている。末筆ながら、今回の組織改編対応が円滑に進むよう労を惜しまずご指導・ご協力いただいた関係者の皆様に、この場を借りて心より御礼申し上げます。

事例報告②

「ナイトライブラリー&トークセッション 3年目を迎えて」

千葉市中央図書館
太田 康幸

本を読むとすぐに眠くなる、そんな私になぜナイトライブラリーを始めたのか。それは当時の課長の熱い思いがきっかけでした。「夜更かし同人会」という図書館の有志メンバーを立ち上げ、思いを込めた文字いっぱいのチラシをつくり、館長と課長が千葉市図書館情報

ネットワーク協議会の大学図書館へ何回も参加のお願いをし、手作り感満載のナイトライブラリー&トークセッションを開催する準備が整いました。

平成26年第1回

初年度の参加者は9人。トークセッ

ションのパネリストは、私の大学時代からの友人である出版業界の方、店頭図書館返却ボックスを設置させていただくなどご協力いただいている三省堂書店そごう千葉店の店長、本の重要性を子どもたちに広めている中学校教諭の方にご参加いただき、それぞれの

業界の話や、いろいろな本との出会いや経験についてお話いただきました。学生たちから質問を募ったところ、いつの間にか人生相談のようになっていましたが、自分の経験を交えて丁寧に回答されていました。また、ツイキャスでトークセッションの動画配信を試みましたが、問題が多く、会場の雰囲気を手早く伝えることができませんでした。

深夜、少しずつ照明を落としていくと、机だけがスポットで照らされ、いつもの図書館と違う雰囲気の中、学生たちは遅くまで本を読んでいたり、ソファアの上で仮眠を取ったり、会議室で話をしていたりと、それぞれの時間を過ごしていました。2日目の朝、会議室に集まっていると、市長が来館するなどのサプライズもありました。手探り状態ではありましたが、学生たちが求めているものもわかり、無事に1回目のナイトライブラリーが終了しました。



第1回目の様子(トークセッション)

平成27年 第2回

ナイトライブラリー開催から4か月後、発案者である課長が異動となってしまいました。今年のナイトライブラリーはどうするのかと視線が集まる中、「今年もやろう」と言ってしまう、前課長の意志

を受け、私が中心となって準備を開始。昨年度は時間がなくて泣く泣く諦めた「謎解きゲーム」や「大人のためのおはなし会」を開催することにしました。また、若手職員のアイデアでチラシをシンプルに仕上げたり、景品を作ったりして2回目のナイトライブラリーを迎えました。

参加者は12人。トークセッションでは放送関係の方にもご参加いただき、昨年度とは少し違ったものになりました。大人のためのおはなし会では、いつもとは違う雰囲気の中、静かにおはなしが始まりました。謎解きゲームはフロアに隠された質問を探しだし、ヒントを基に図書館の本を使って答えを探し出します。図書館の資料にヒントが載っていないというアクシデントもありましたが、どこからヒントを得ようか推理できるので、難しい問題のほうが楽しんでくれたようでした。ハプニングが思わぬ結果をもたらした2回目のナイトライブラリーでした。

平成28年 第3回

3回目になる今年も「ナイトライブラリーをやろう!」と開催の準備が始まりました。参加人数は20人と過去最大のため、基本的なプログラムは昨年と同じにし、人数増に耐えられるようにしました。例年最初に館内見学を行っていますが、実は学生たちが館内を回っている裏では、パネリストとの打ち合わせやトークセッションの会場設営など、同時進行で作業を行っています。

今回のトークセッションでは、千葉市中央図書館長にも参加していただき、

大盛り上がり。謎解きゲームや大人のおはなし会も2回目なので、スムーズに進行することができました。アンケートでも「また来年も参加したい」という感想が多数あり、今年も無事に終了することができました。

今後の課題

今回の研修会の発表にあたり、なぜ泊まりにこだわったか、前課長に伺いました。数年前、台風の接近により一晩図書館で待機した際、深夜の見回りで真っ暗の館内を巡回していた時に、外国の魔法使いの映画のように、うす暗い書架の間から本が飛び出してくるような雰囲気を感じ、「これを学生に伝えたい」と思ったそうです。

最近スタッフの高齢化が進み、泊まりは体力的にもきつくなってきましたが、「ナイトライブラリーに参加して楽しかった」というアンケートでの感想やTwitterのつぶやきが、「また来年も」という起爆剤になります。ナイトライブラリー開催にあたり、チラシの配布等で千葉市図書館情報ネットワーク協議会の皆様を始め、多くの方々にご協力いただき開催することができましたこと感謝いたします。ありがとうございました。



太田康幸氏 千葉市中央図書館

図書館見学

「千葉市生涯学習センター地下1階を見学して」

千葉市若葉図書館

須田 展司

平成28年4月に生まれ変わった千葉市生涯学習センターの地下1階。1歩足を踏み入ると、コンクリートと木を基調とした、シックな雰囲気の中にもあたたかみのある空間が広がっていました。特に新しくなったコーナーを

中心に、千葉市生涯学習センター管理グループの広嶋様にご案内いただきました。

まず目に入ったのは、大きな「インフォメーションボード」。このフロアでどんな催し物や講座があるのか、一目でわ

かるようになっていきます。さらに、床面にもわかりやすい案内表示があるので、迷ってしまうこともないでしょう。

「インフォメーションボード」から少し視線をそらすと、靴を脱いで遊ぶことができる「ポケットパーク」があります。



50 インチのスクリーンに流れている映像を見たり、図書館で借りた絵本を読んだり、親子で足を伸ばしながらゆったりと過ごすことができます。

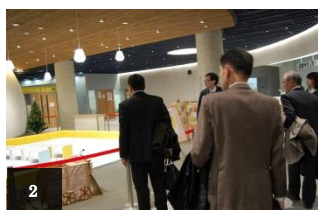
「ポケットパーク」のすぐ隣には「ラウンジ」というスペースがあります。一般利用者への貸出は行っていませんが

イベントに応じて自由に配置できる椅子と机がいくつもあり、さまざまな主催講座や展示など、多目的に利用できる場所となっていました。

「ポケットパーク」「ラウンジ」の正面にあるのが「ブラウジングカフェ」。天井を見上げると吹き抜けになっていて、まさにカフェのような明るい雰囲気がありました。カウンター席はコンセントやライトが設置されています。また、ここでは、仕事に活用できる知識が身につく e ラーニング「schoolWeb-campus」が体験でき、e ラーニング用のタブレットの貸出も行っているそうです。地下

全体で無料 FREESPOT も利用できるので、ICT を利用した学習が快適にできます。

あらゆる角度から「まなび」をサポートしている千葉市生涯学習センター。今回のリニューアルによって、より気軽に、より便利に、より幅広い世代に、「まなび」を体験していただけるようになったのではないのでしょうか。時代のニーズに合わせた学習環境の提供について、ぜひ参考にさせていただきたいと思います。



1/床面に書かれた案内表示。初めて訪れた方でも迷うことなく利用できそう 2/見学の様子 3/ポケットパーク。中央にあるのは、椅子にも机にも使うことができるインテリア 4/ラウンジ。スクリーンを使った上映会なども可能 5/ブラウジングカフェ。広々と机を使うことができ、快適に学習に取り組める 6/見学の様子

千葉市生涯学習センター データ

所在地:千葉市中央区弁天
3-7-7

TEL:043-207-5811

FAX:043-207-5812

開館日時:9:00-21:00

休館日:毎月第4月曜日
(祝日及び振替休日にあたる
ときは火曜日)、年末年始
(12/29~1/3)

千葉市生涯学習センター
HP:

<http://chiba-gakushu.jp/>

加盟館紹介：量子科学技術研究開発機構本部図書館

量子科学技術研究開発機構

本部図書館 データ

所在地:千葉市稲毛区六川 4-9-1

TEL:043-206-3053 FAX:043-287-7629

開館日時:9:00-17:00

休館日:土・日・祝日・年末年始

利用対象:条件なし(正門にて身分証明書などで入
構手続き)

その他:

【閲覧】可:閲覧簿に記入。【貸出】不可 【複写】
可:40円、カラー100円

量子科学技術研究開発機構本部図書館 HP:

<https://ss4lime.qst.go.jp/library/>

昭和32年7月、放射線医学総合研究所の発足と同時に図書館が設けられました。平成28年4月には、名称が「量子科学技術研究開発機構本部図書館」に変更されました。放射線医学や生物学関係、原子力関係、物理・生物・化学・地学関係に関する幅広い分野の資料、さらに製本雑誌やレポートなどをあわせて約8万冊が所蔵されています。



千葉市図書館情報ネットワーク協議会は、千葉市内の館種を越えた図書館ネットワークを通じて、情報提供能力を強固にし、図書館サービスの向上を図ると共に、学術研究及び生涯学習の発展に寄与することを目的として、平成6年1月に設立。
このNetwork通信は、加盟館の情報交流並びに協議会の活動状況を加盟館利用者等にお知らせすることを目的とし、平成10年10月から発行している。

Network通信 No.51 2017年3月31日発行

千葉市図書館情報ネットワーク協議会事務局:
〒260-0045 千葉市中央区弁天3-7-7 千葉市中央図書館内
TEL 043-287-3980 FAX 043-287-4074
千葉市図書館情報ネットワーク協議会 HP:<http://www.ccal.jp/>

